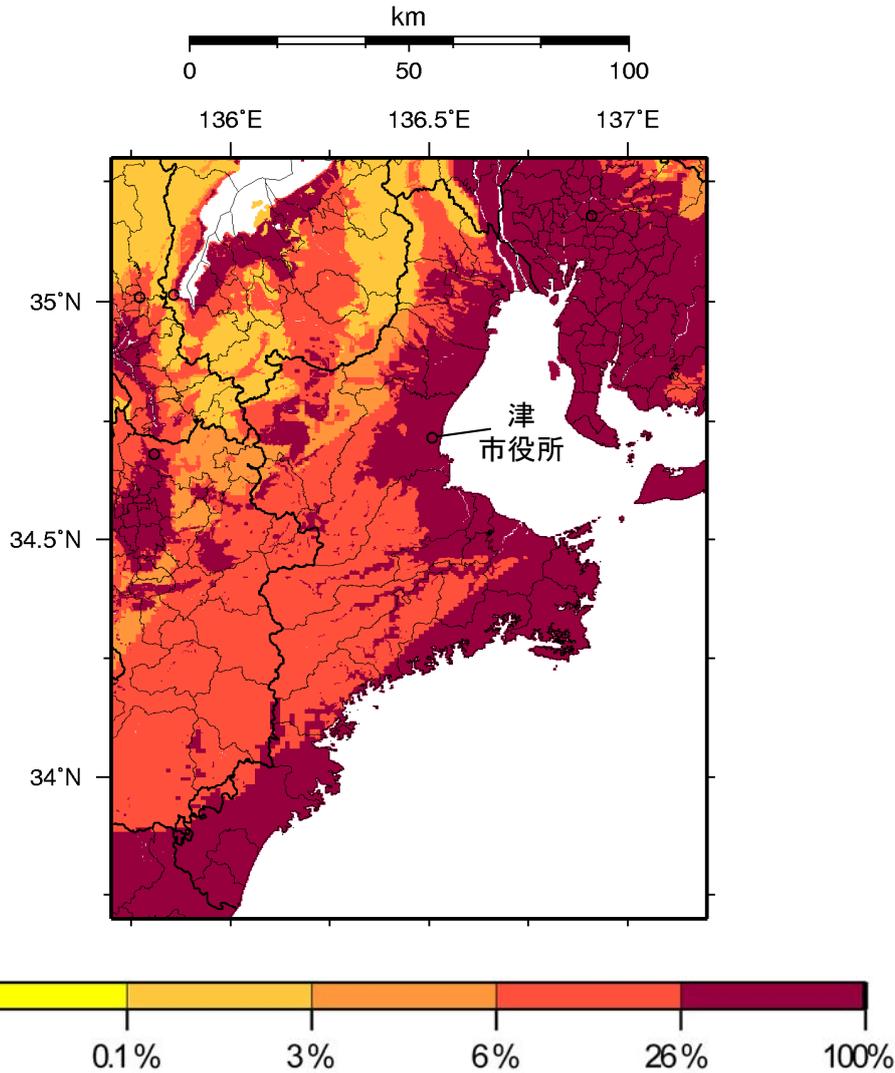


三重県



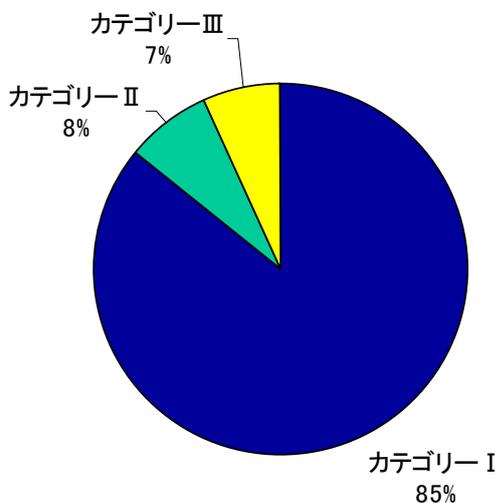
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

伊勢湾岸や太平洋沿岸を中心に、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響が大きくなっています。また、山地(養老山地、鈴鹿山脈、布引山地、紀伊山地など)に比べると、沿岸の平野部(伊勢平野など)や盆地(上野盆地)、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

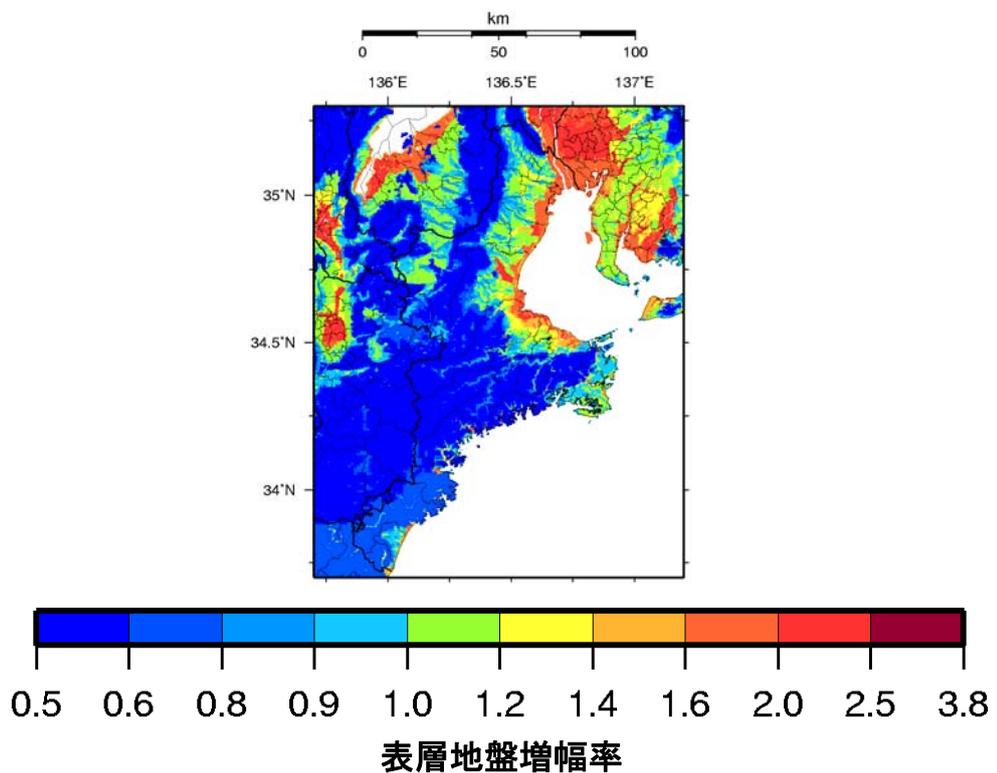
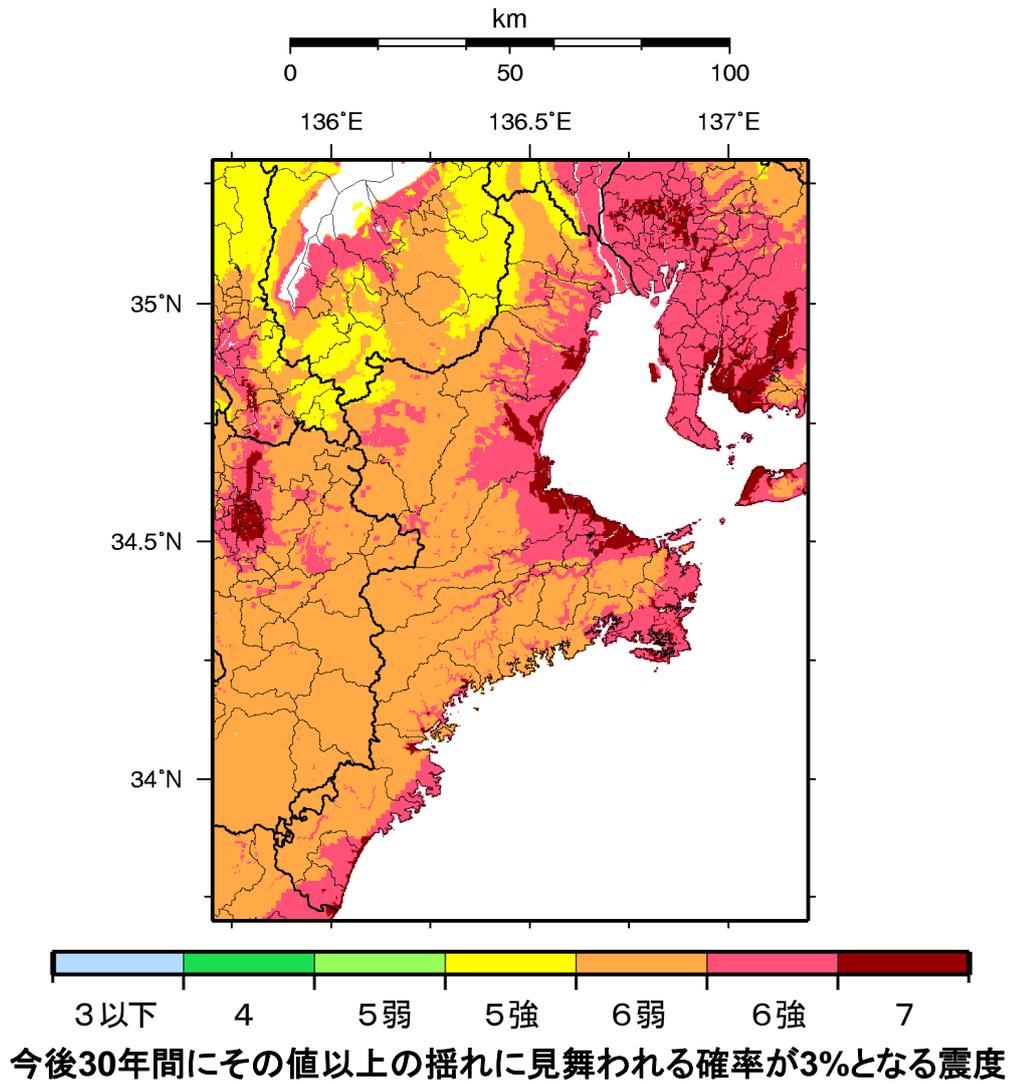
津市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の震源域に近いため、その影響度が非常に高く支配的です。

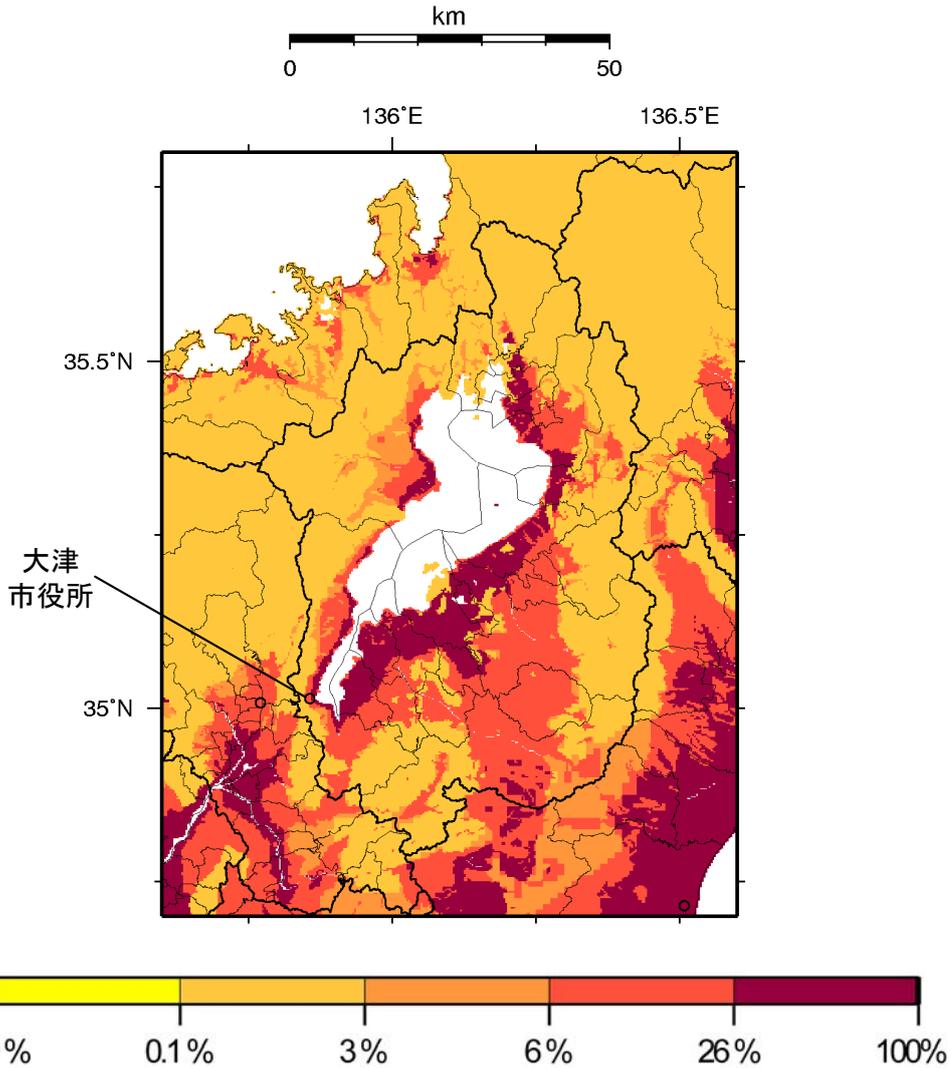


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

津市役所の位置における今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



滋賀県



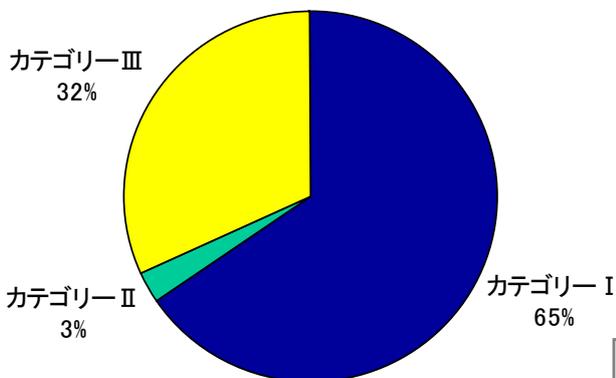
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

琵琶湖沿岸の低地（近江盆地）などでは、周辺部の山地（伊吹山地、鈴鹿山脈、比良山地など）に比べると、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

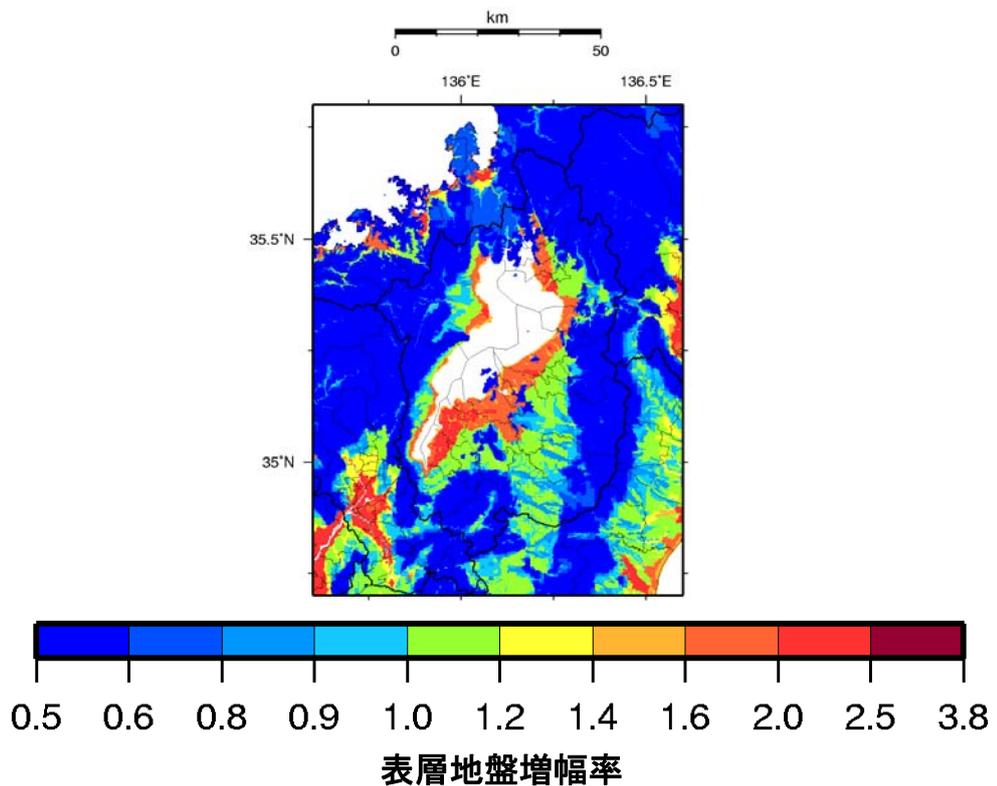
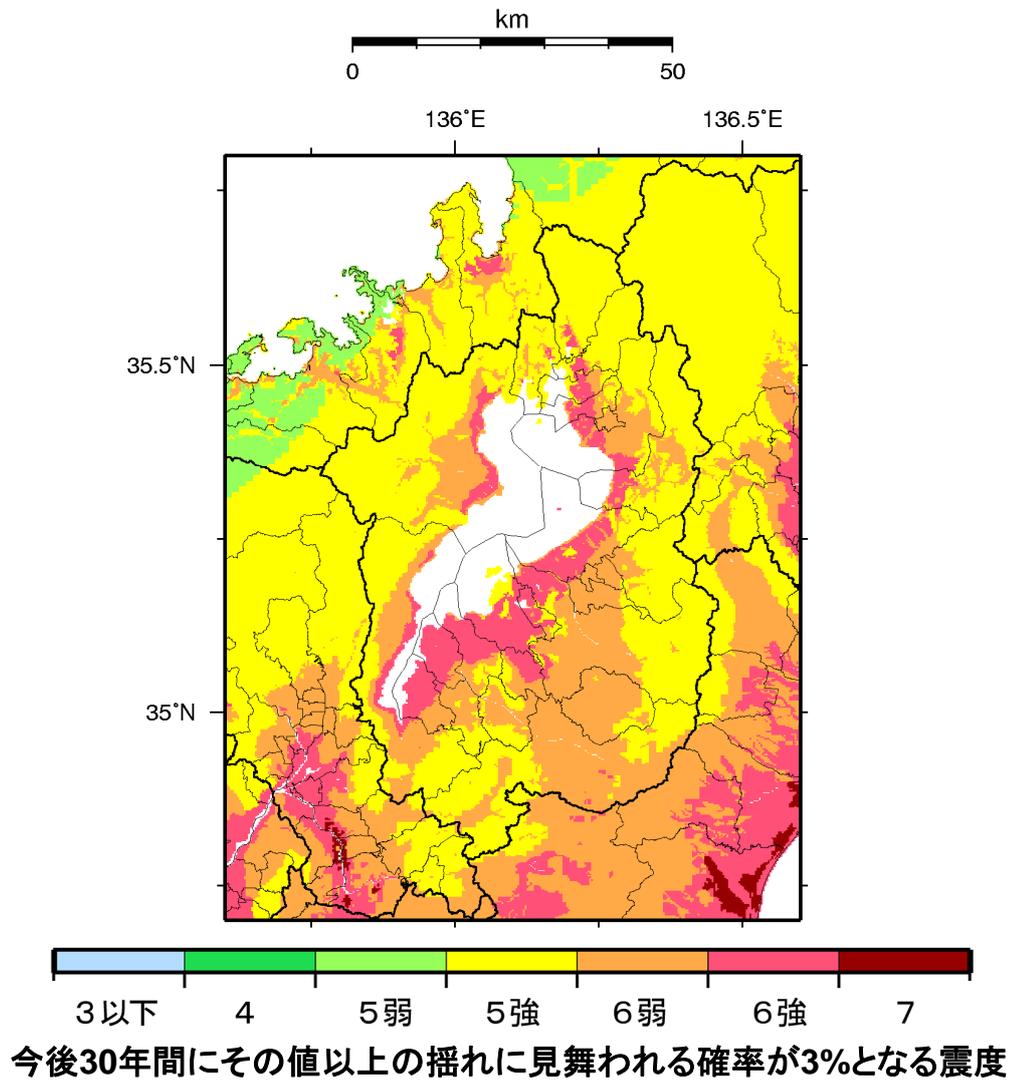
大津市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリⅠ）の影響度が最も高くなっていますが、主要活断層帯の地震（カテゴリⅢ）の影響度も高くなっています。これは主に、近傍にある琵琶湖西岸断層帯の影響と考えられます。

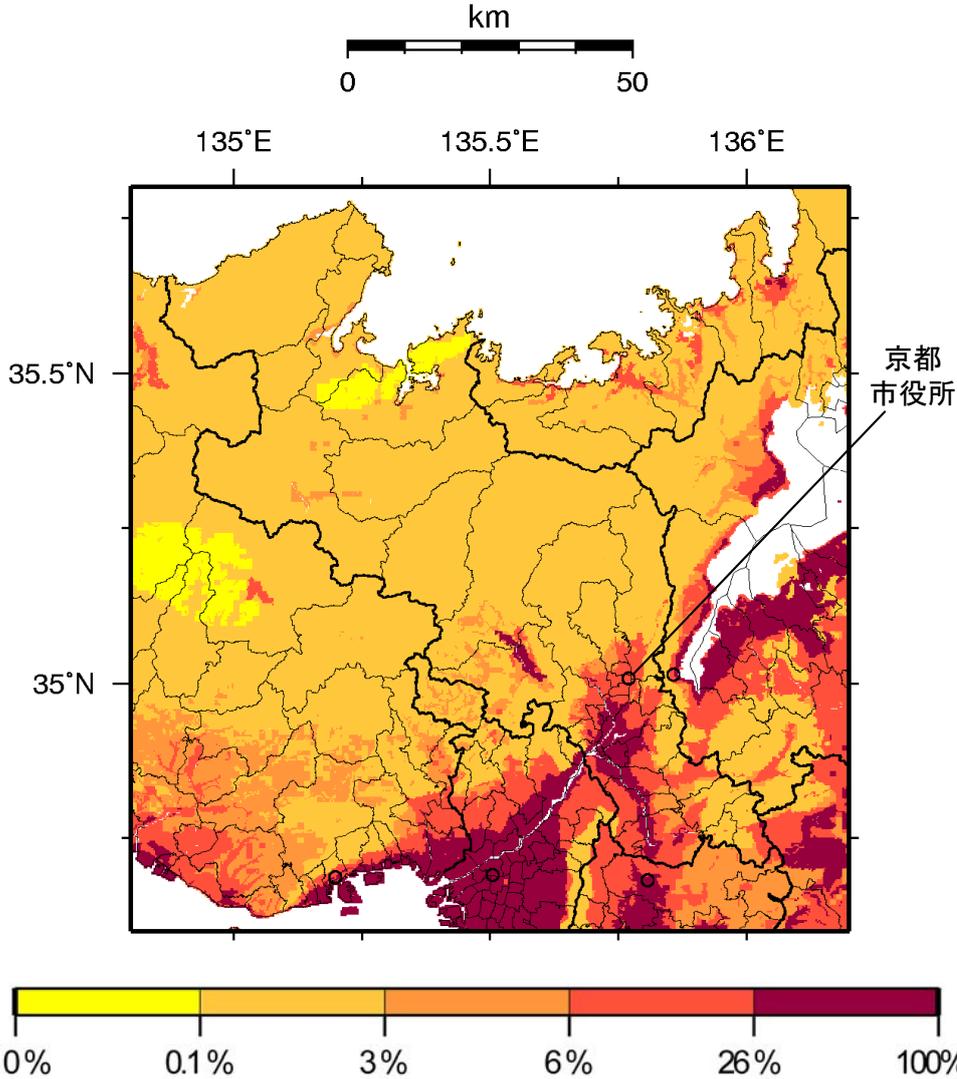


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

大津市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



京都府



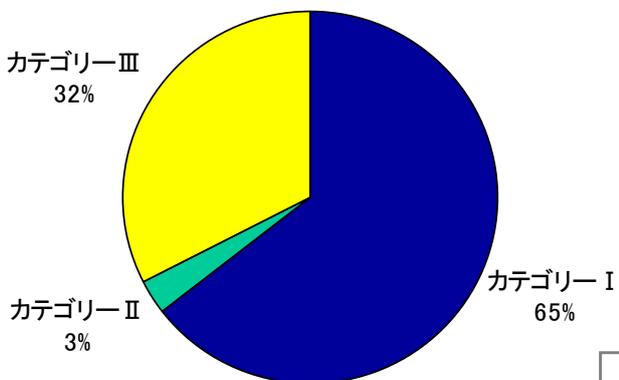
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

県の大部分を占める山地に比べると、盆地（京都盆地、亀岡盆地、福知山盆地）や日本海沿岸の低地、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また、南側ほど、南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響が大きくなっています。

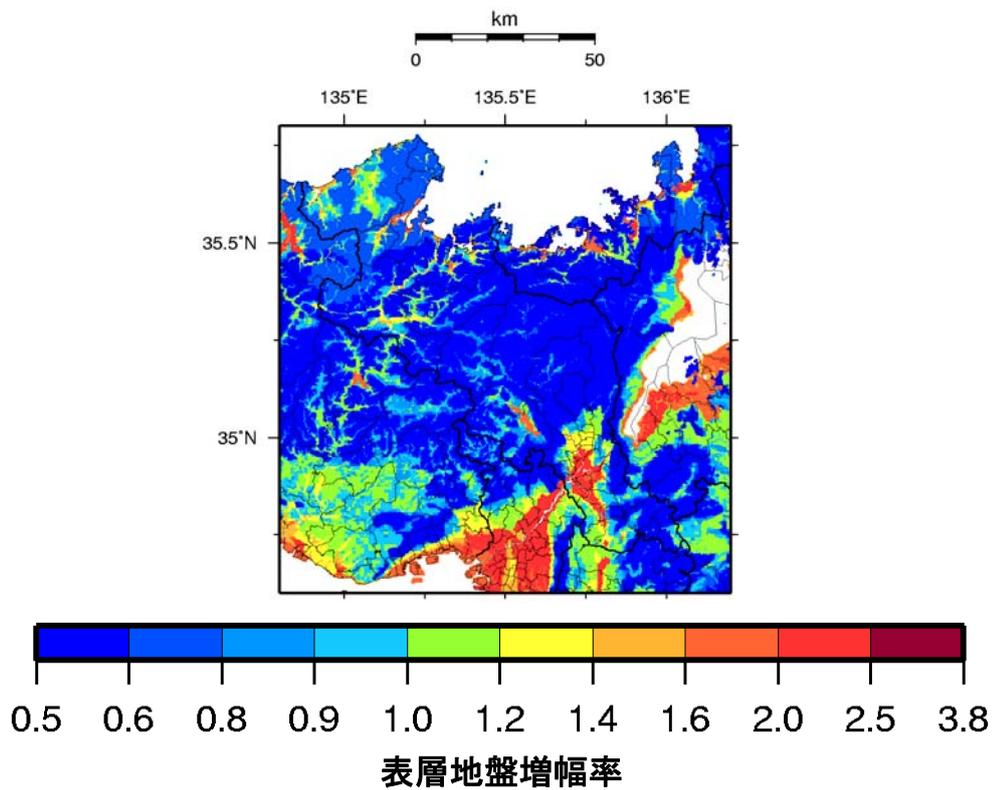
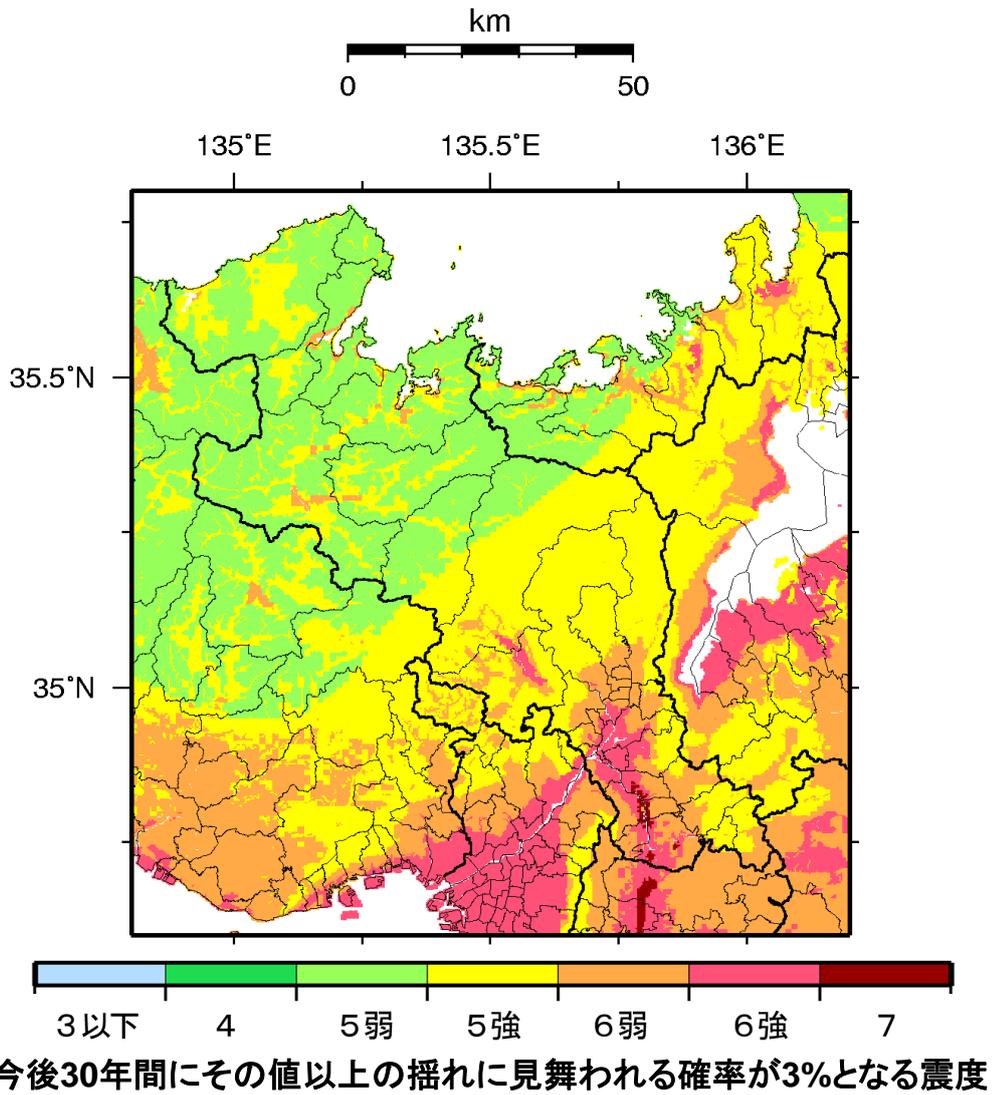
京都市役所：高い。

南海トラフの地震の影響度（カテゴリーⅠ）が最も高くなっていますが、琵琶湖西岸断層帯など、主要活断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響度も高くなっています。

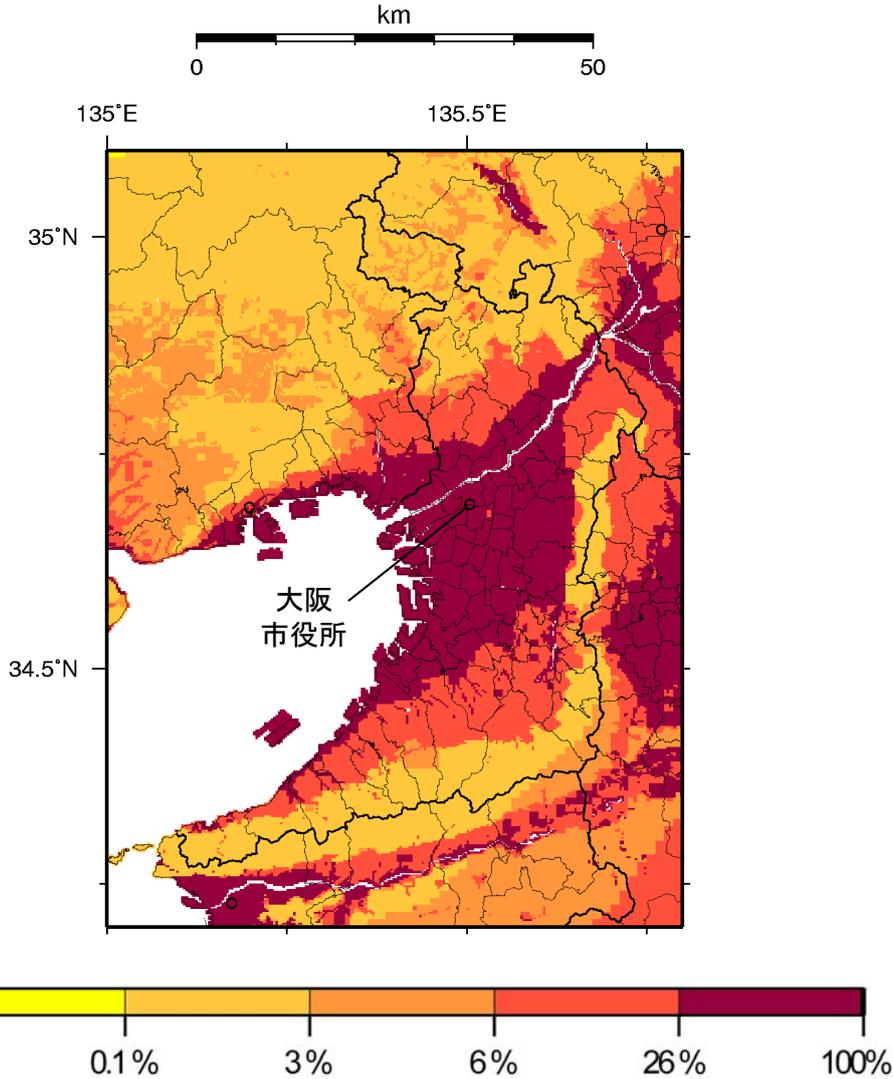


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

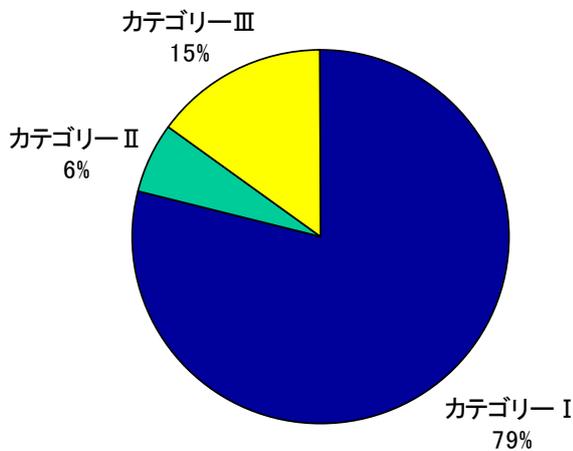
京都市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



大阪府



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

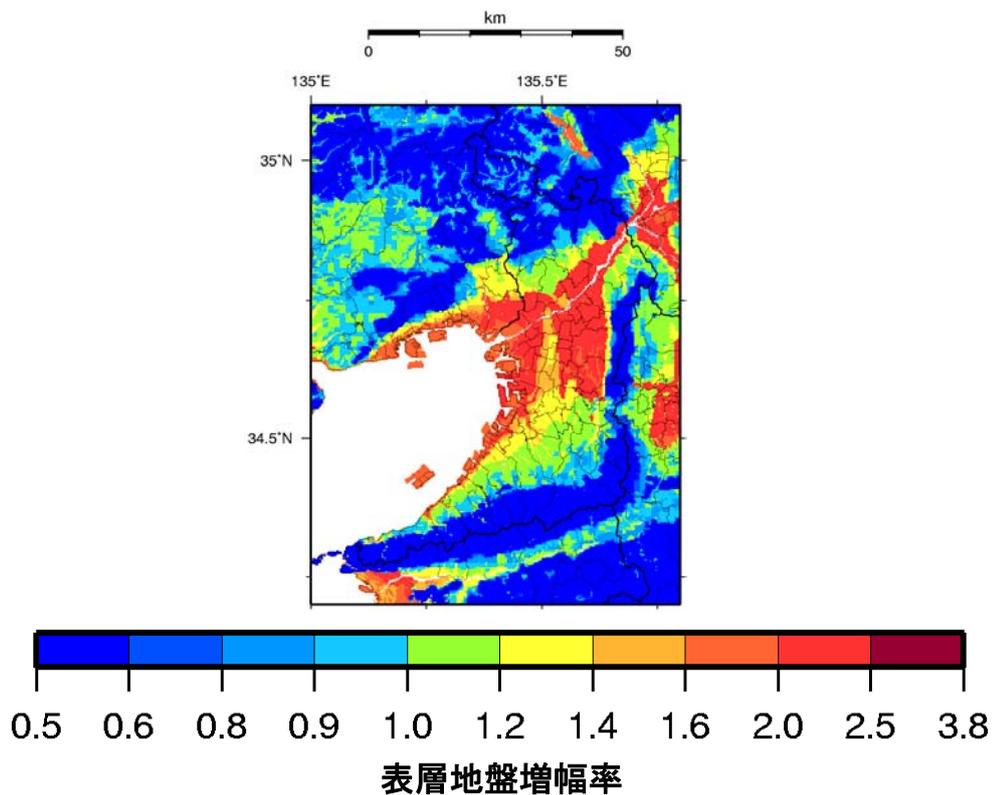
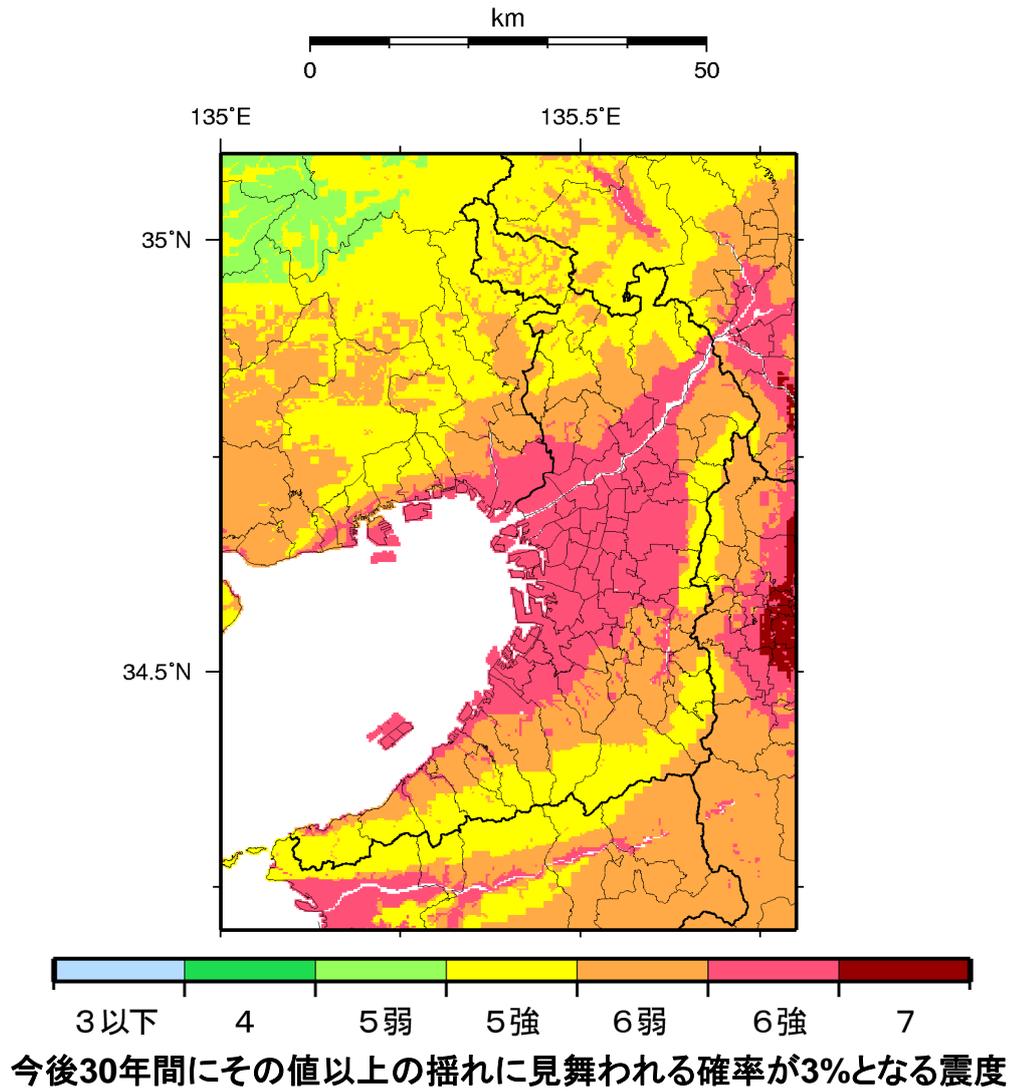
県周辺部の山地（生駒山地、金剛山地、和泉山脈など）に比べると、大阪平野では地盤増幅率が高く、南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響が大きいことや、周辺に活断層が多い地域でもあることから、確率・震度ともに大きくなります。

大阪市役所：高い。

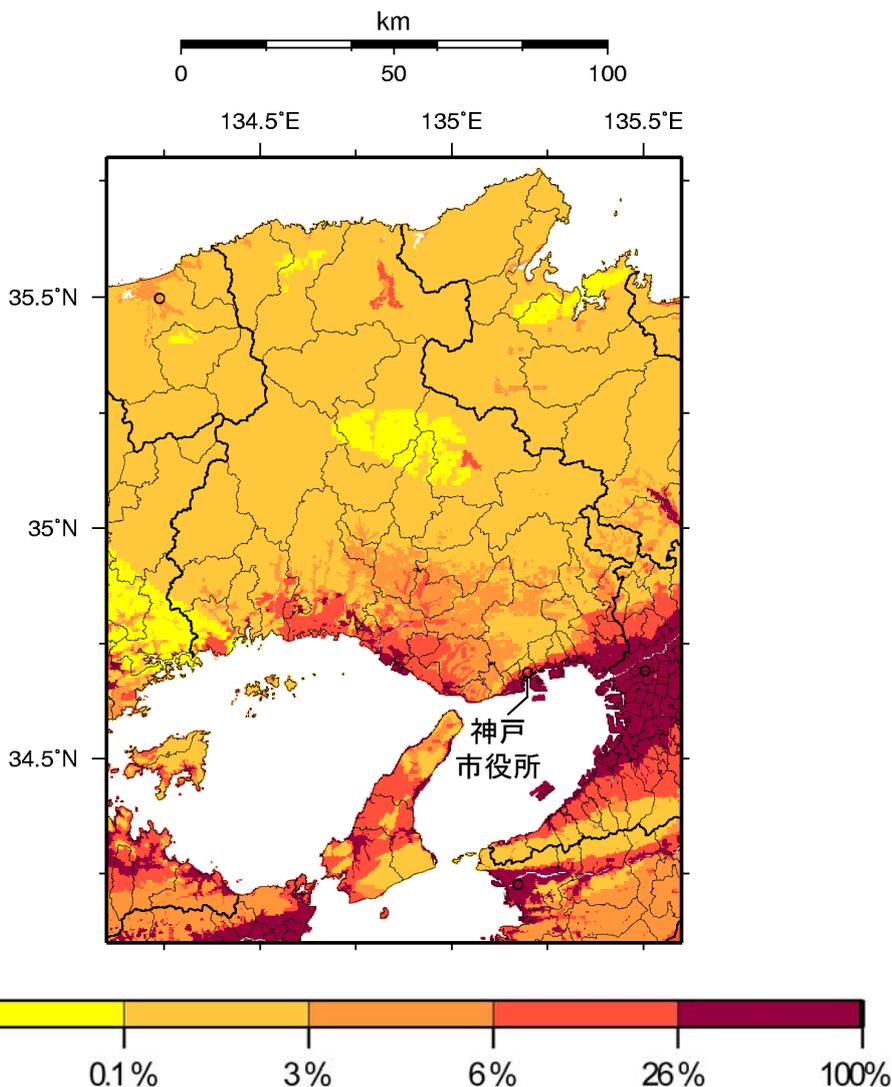
南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響度が最も高くなっていますが、上町断層帯など、主要活断層帯の地震（カテゴリー III）の影響も見られます。

カテゴリー I： 海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II： 海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III： 活断層など陸域と海域の浅い地震

大阪市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



兵庫県



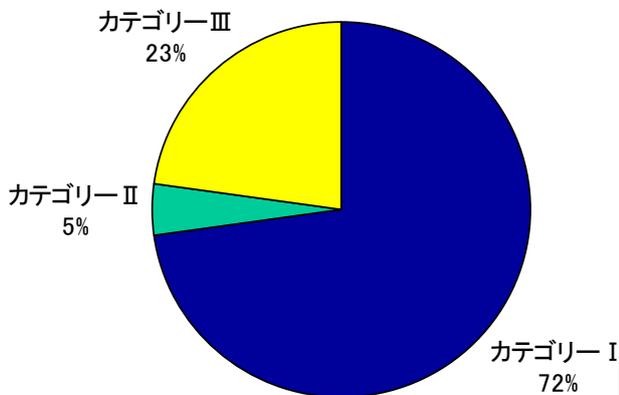
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

山地（六甲山地、中国山地、丹後山地など）に比べると、瀬戸内海沿岸の平野部（大阪平野、播磨平野、洲本平野など）や盆地（豊岡盆地など）、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

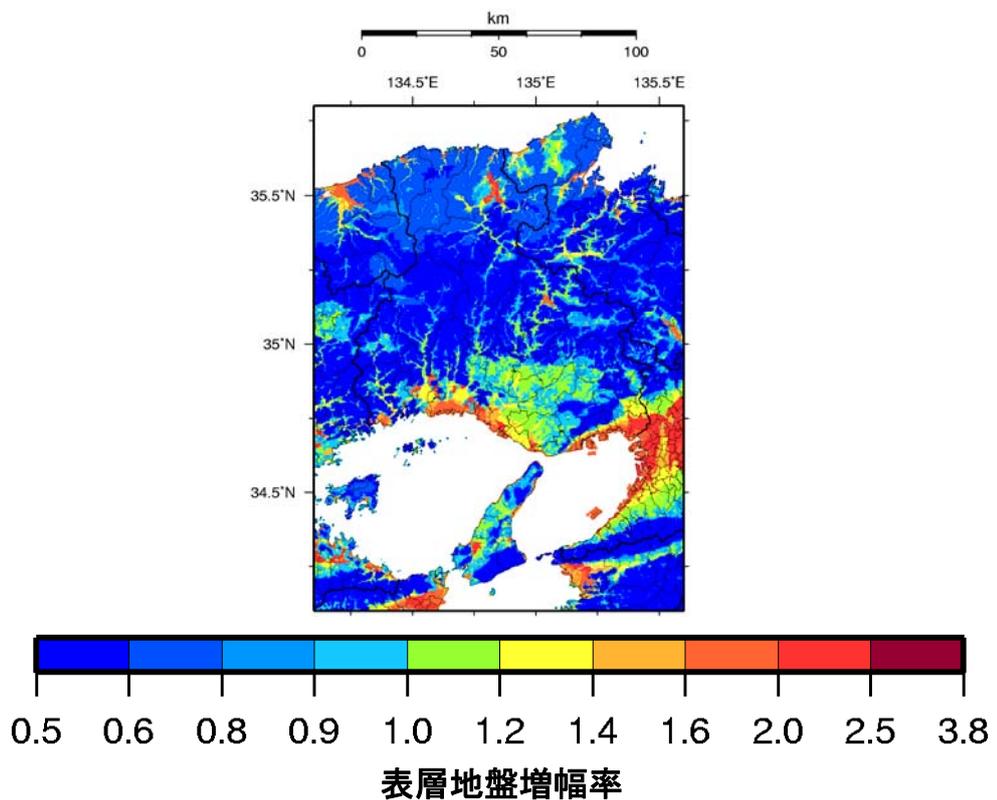
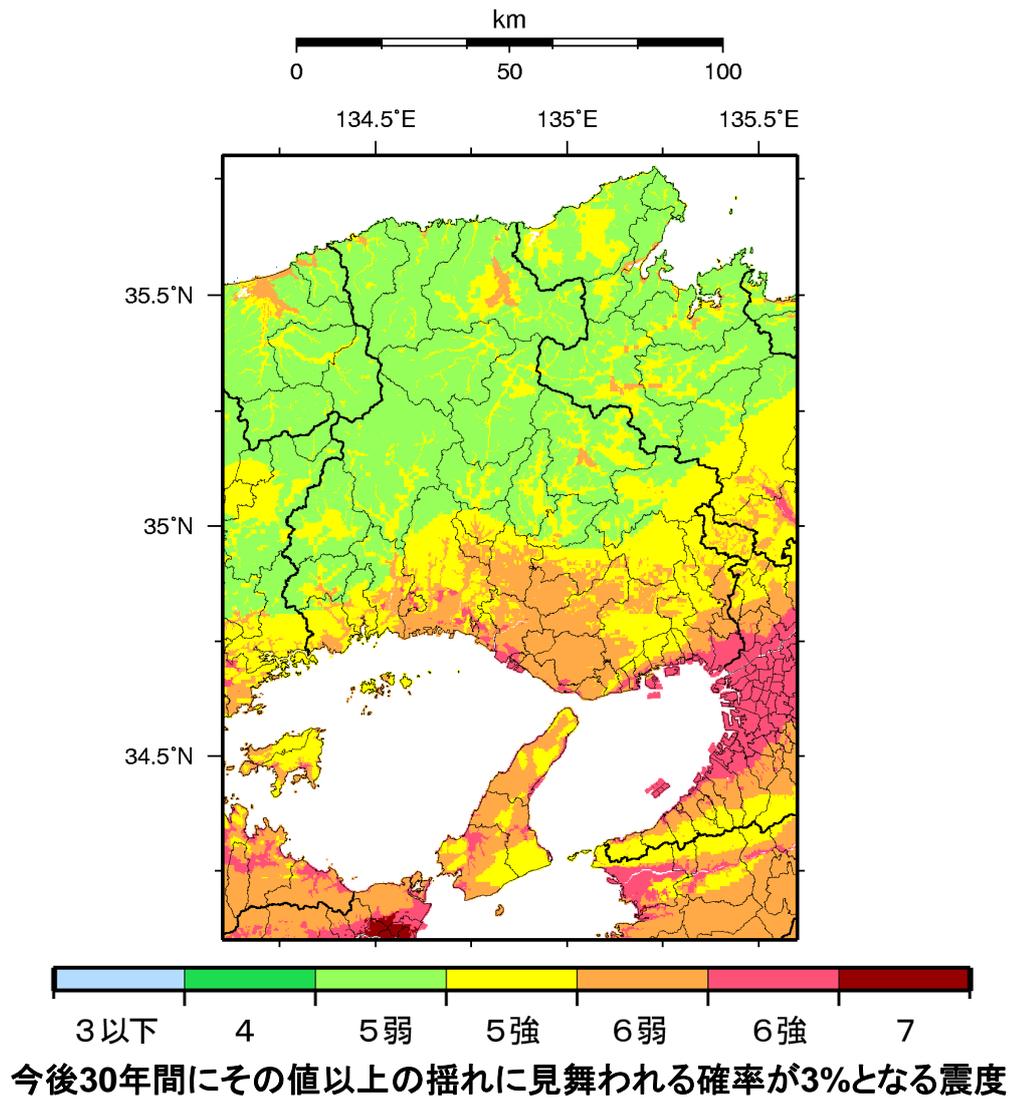
神戸市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリⅠ）の影響度が最も高くなっていますが、主要活断層帯の地震（カテゴリⅢ）の影響も見られます。上町断層帯や山崎断層帯などの影響と考えられます。

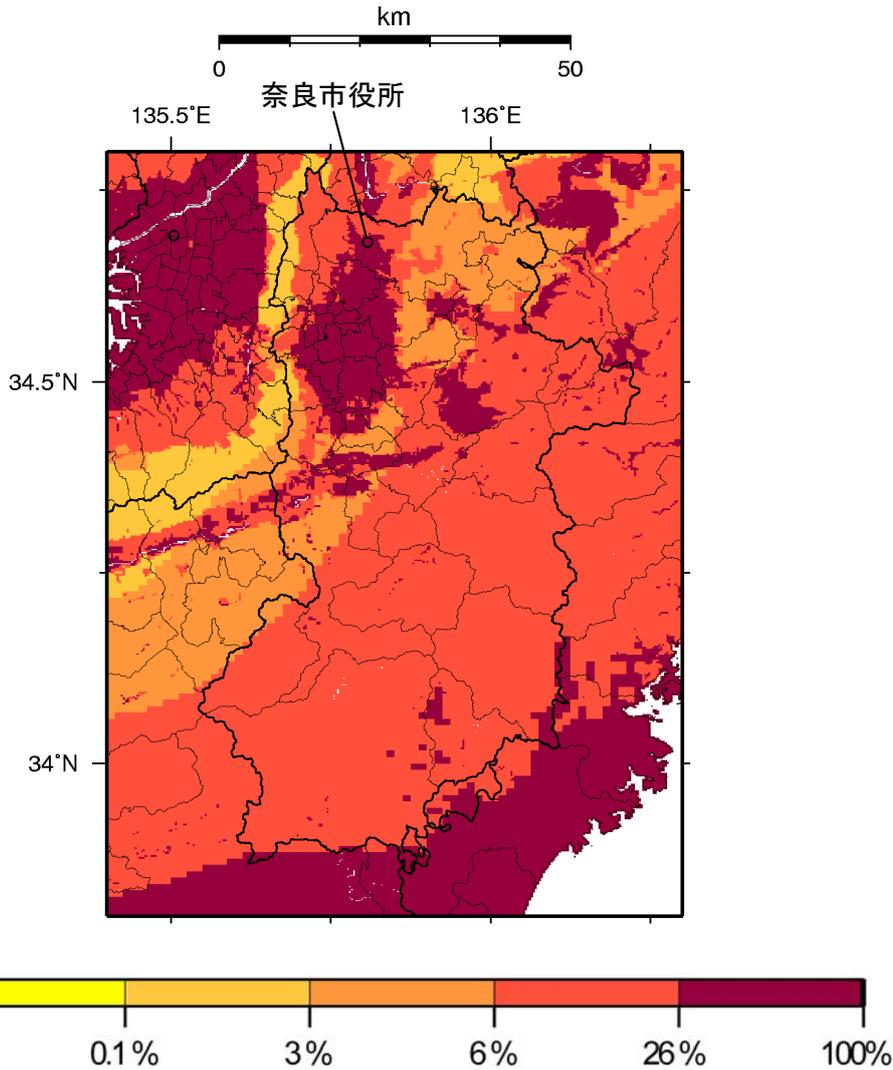


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

神戸市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



奈良県



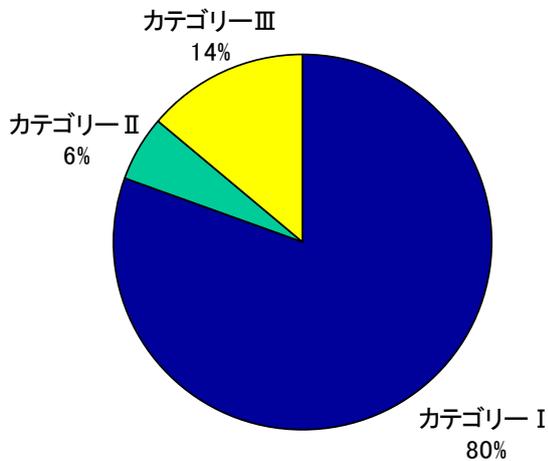
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

県の大部分を占める山地（紀伊山地、笠置山地など）に比べると、河川沿いや盆地（奈良盆地など）では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また南側ほど、南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響が大きくなっています。

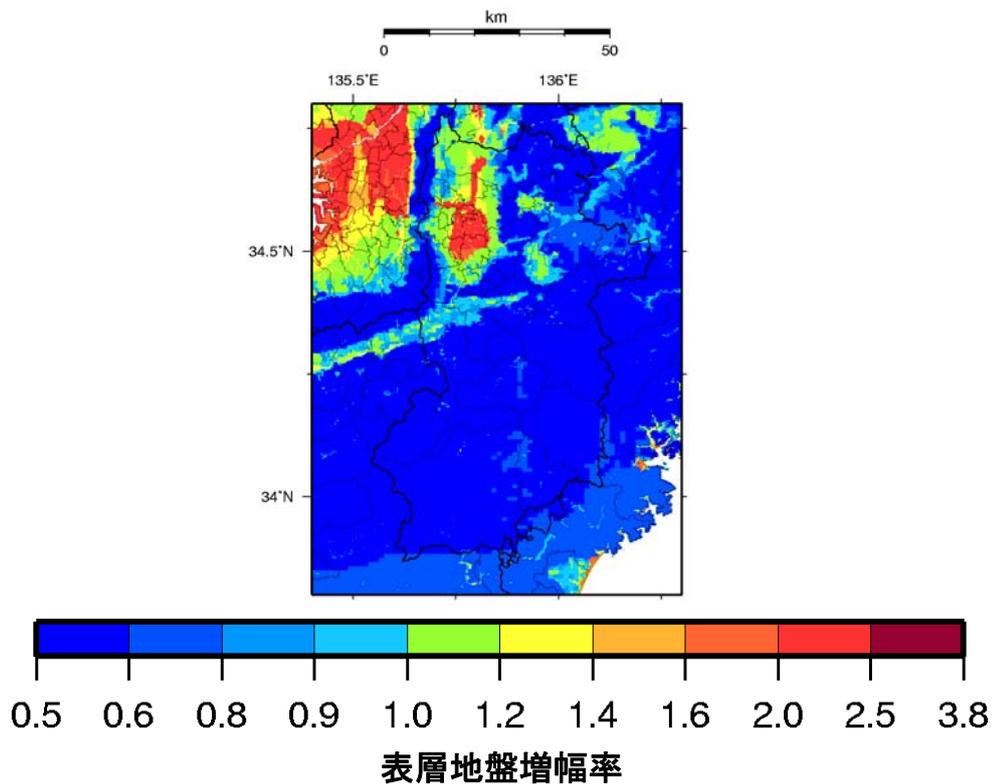
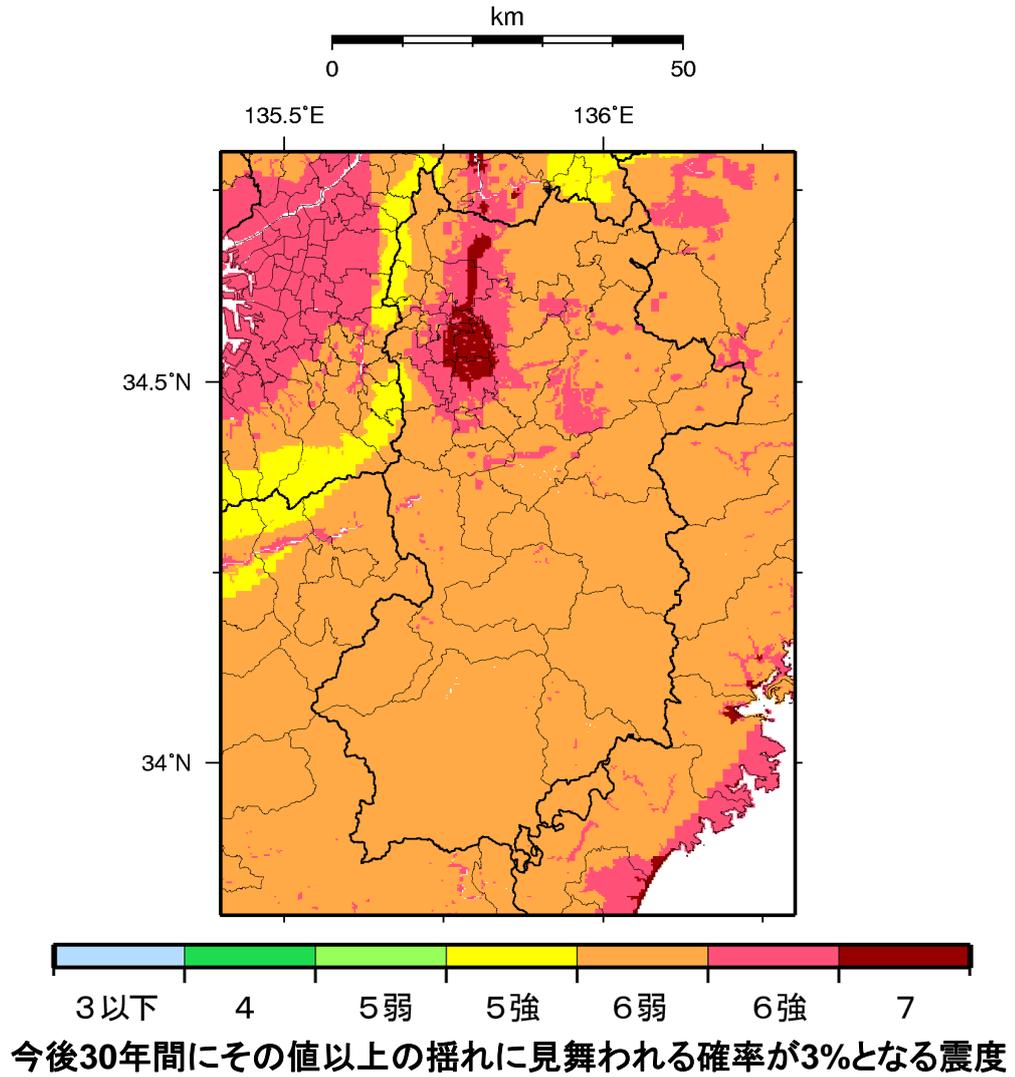
奈良市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響度が最も高くなっていますが、主要活断層帯の地震（カテゴリー III）の影響も見られます。これは主に、奈良盆地東縁断層帯の影響と考えられます。

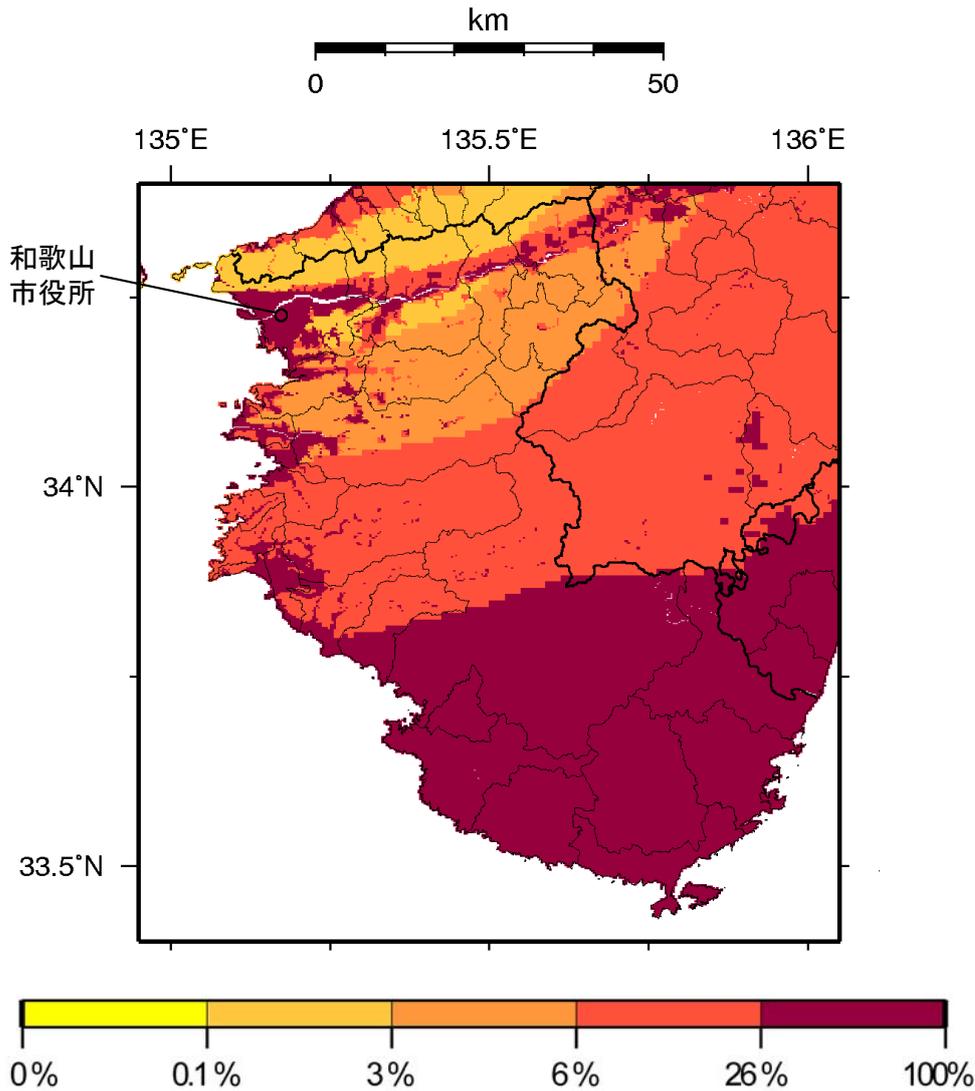


カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

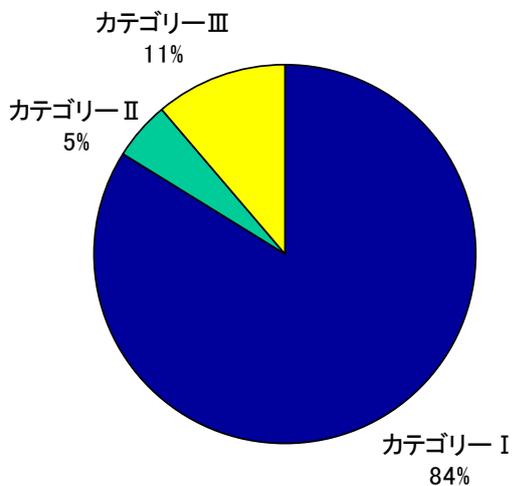
奈良市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



和歌山県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

南側ほど、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響が大きくなっています。また、県の大部分を占める山地(紀伊山地、和泉山脈)に比べると、河川沿いや沿岸の平野部(和歌山平野など)では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

和歌山市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響度が最も高くなっていますが、活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響も見られます。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

和歌山市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

